

一変する自閉症との戦い：百年前の薬が症状を解決——研究が実証

【訳者注】自閉症の子供たちが日本を含めて、世界的に大量に増えているという話は、かなり前から聞いていた。妊娠後期に母親が大量の大気汚染（ケムトレイルであろう）に触れると、かなりの高率で自閉症児が生まれるという報告がある。その上、末尾に引用した読者のコメントにあるように、もし子供に与えるワクチンに有機水銀やアルミニウムが入っており、しかも 100 年間、自閉症に効く薬が故意に抑えられていたとしたら、誰であれ、地球を支配する者たちの意図は明らかではないか？ 最近あきらかになった、恐るべき代替医療家の大量暗殺という事実を考えるなら、彼らに逆らうこの発見をした研究チームなどは、よほど気を付けない限り、凶暴化した彼らの前にはひとたまりもないであろう。

RT

May 31, 2017



スラミンという薬品が、自閉症の症状を軽減することができる。©Veri Sanovri/ Global Look Press

100 年以上前に発見された薬剤が、自閉症の症状と戦うカギを握るかもしれない、とある研究チームが発表した。

サンディエゴ医科大学の研究者 [Robert Naviaux](http://naviauxlab.ucsd.edu/team/) 博士が、最初 1916 年に開発された薬剤 suramin を、5 歳から 14 歳の自閉症の少年 10 人に投与した結果、改善する様子が認められた。<http://naviauxlab.ucsd.edu/team/>

「たった一度の投与で、ほとんど道路を塞いでいた障害物が除去されたようだった」と彼は言った。「もしこの先の研究によって、継続的な健康改善の効果があることが証明されれば、自閉症の患者をもつ家族にとって大きな革命となるであろう。」

<http://www.mnn.com/health/fitness-well-being/stories/could-obscure-100-year-old-medication-be-cure-autism>

雑誌 *Annals of Clinical and Translational Neurology* に発表されたこの研究は、実験参加者の 5 人がスラミンを与えられ、残り 5 人がプラシーボ（偽薬）を与えられた。このグループの中には、4 人の言葉を話せない子供、2 人の 6 歳児、2 人の 14 歳児が含まれていた。

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/acn3.424/full>

「6 歳と 14 歳のスラミンを受けた少年は、この 1 回のスラミンの注射の後、ほぼ 1 週間で、彼らの人生で初めて文章を話した」と Naviaux は、カリフォルニア大学、サンディエゴ校医療ウェブサイト [に話した](http://www.ucsd.edu/news/releases/Pages/2017-05-26-century-old-drug-potential-new-approach-to-autism.aspx)。「これは、プラシーボを与えられたどの子供にも起こりませんでした。」 <https://health.ucsd.edu/news/releases/Pages/2017-05-26-century-old-drug-potential-new-approach-to-autism.aspx>

<https://health.ucsd.edu/news/releases/Pages/2017-05-26-century-old-drug-potential-new-approach-to-autism.aspx>

https://twitter.com/RT_com/status/860690837193338880/photo/1

アメリカ疾病予防管理センターは、ほぼ 68 人に 1 人の子供が、自閉症にかかっていると推計しており、これは（少女より）少年に 4 倍以上多い。しかし自閉症の原因はまだ十分に理解されていない。 <https://www.cdc.gov/ncbddd/autism/data.html>

研究によって、細胞は、ウイルスや汚染物質からの攻撃に反応して、その膜を硬化させることがわかっている。「細胞危険反応」CDR と呼ばれるこの反応は、細胞が危険の通り過ぎるのを待つようにさせる、通常の防衛機構である。自閉症は、細胞がこのモードに固定されやすい、初期幼児時代に発症するものと考えられている。

https://twitter.com/RT_com



インフルエンザ戦略：インフルエンザ A がどのように人体を攻撃し、ハイジャックするかの新研究——
いかに、インフルエンザ・ウィルスが、人間の細胞をハイジャックし、身体全体に感染を広げるかという、ほとんど研究されていない過程の研究が行われている。

ナヴィオー博士は、細胞が危険を感知したときに発信する信号を、スラミンが抑止することによって、細胞の固定化を戻し、反応を正常化することができるのだと考えている。

10 年間以上も、1 つの完全な文章も話せなかった息子をもつ、ある親はこう言っている——「注射後 1 時間以内に、彼は、部屋の中にいた医者や看護婦さんたちと、より多くアイ・コンタクトをし始めました。新しい静けさの時もありましたが、より多く、感情を見せる時がありました。」

「彼は、16 歳の兄弟と、かくれんぼ遊びをすることに興味をもち始めました。また、家の周りで新しい音を出すという習慣をもつようになり、前よりもパパを探すようになりました。」

https://twitter.com/RT_com



「殺人細胞軍」：科学者たちは、癌を見つけ破壊する lymphocytes を送るウィルスを、創っている。

Suramin はもともと、アフリカ南サハラのとツェツェ蠅の媒介する寄生虫である、眠り病を治療する薬として開発されたものである。

2013年にマウスにテストされ、今回初めて、子供に試された。

ナヴィオー博士にとって、今後の挑戦は、研究をより大きなサンプル・テストへと拡大することである。「この仕事は新しく、この種の臨床実験はカネがかかります」と彼は言った。「我々はもっと大規模な研究をするための、十分な資金援助を得られませんでした。我々が集めることのできた資金をもってしても、この実験を完成させるには、さらに 50 万ドルの借金をしなければならないでしょう。」

読者のコメントより：

A: 「自閉症を発症させる thimerosal (チメロサル=有機水銀化合物の一つ)、水銀、アルミニウムなどの毒を含むワクチンの接種をやめよ！ そうか、問題は解決したのか。それにしても 100 年昔の物質に効き目があるとしたら、それは Big Pharma (大製薬企業) が、子供たちを故意に自閉症にかからせている証拠ではないか！」

B: 「そもそもチメロサルは水銀を含む薬剤で、この 2 つは別々のものではない。チメロサルは 2001 年以降、ワクチンに使われていない。」

C: 「ワクチンには、もはやチメロサルは使っていないよ。」

D: 「間違いだ。インフルエンザ・ワクチンには、いまだに使われている。」